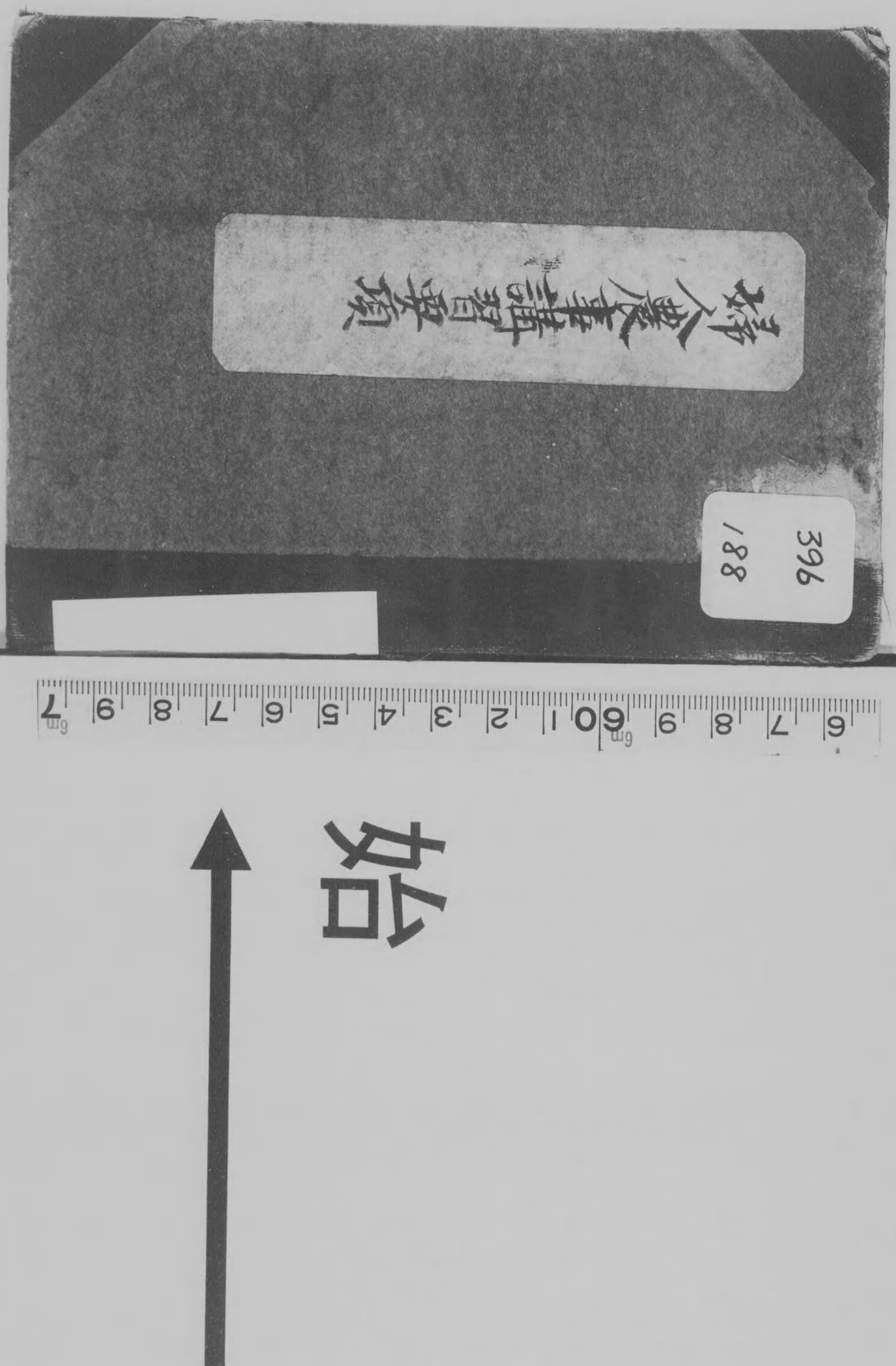

396
188
40

婦人農事講習要項

大分縣農會

396-188

はしがき

農家の經濟を良くするには事業經營法を改善して土地の利用と勞働能率を高めねばならぬ而も農家の仕事は女子の手によりて切り盛せられることが少くない從つて婦女子にも農業の智識を授け時代相應の頭を持ち農家の主婦として活動し得るだけに教導する必要がある之れ本會が婦人農事講習會を開催する所以なり

此の冊子は聽講生の參考に供するため極概略を記し頒布するのである讀者諸君の諒せ

大正8.7
内交
伯

大分縣農會

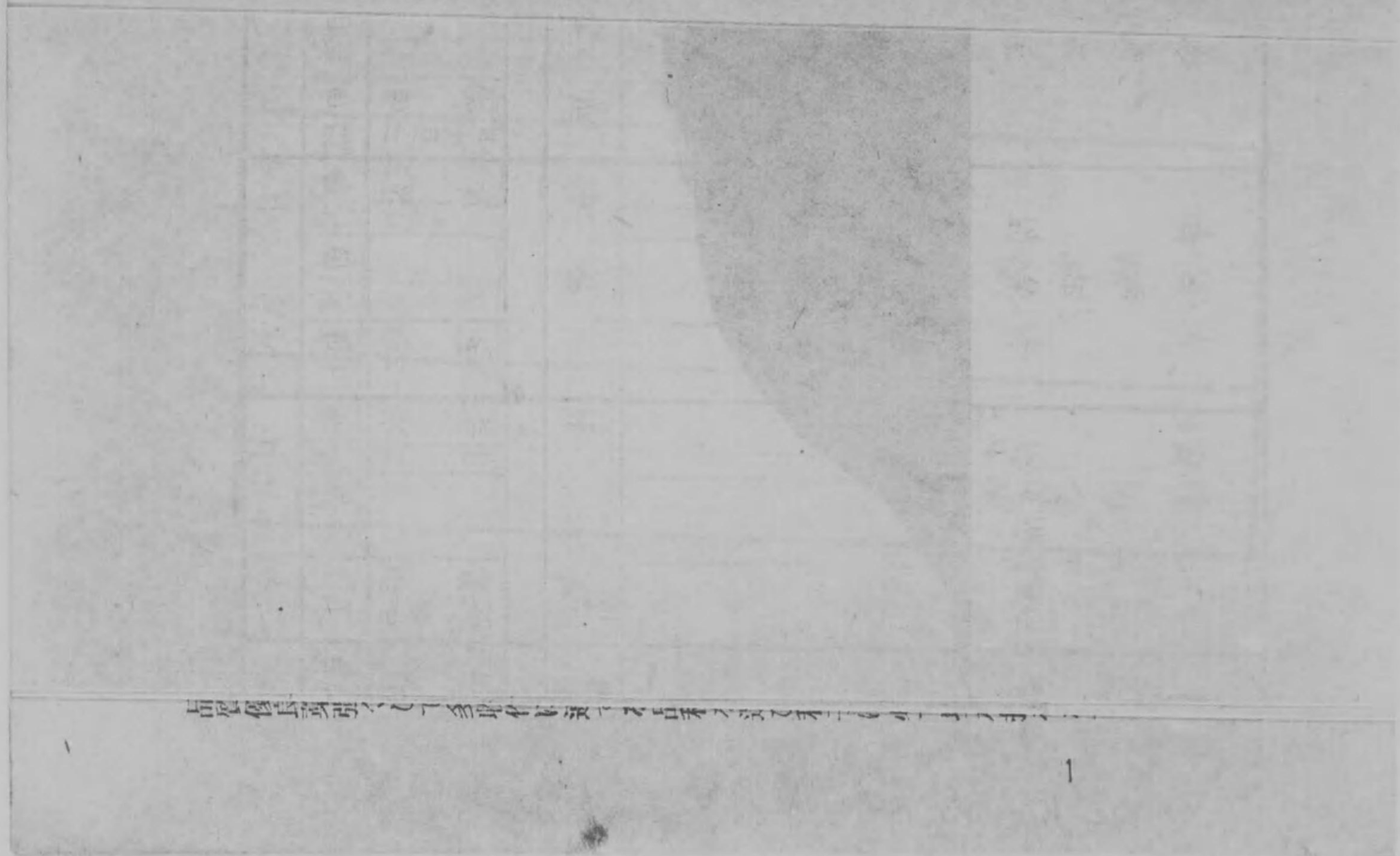
婦人農事講習要項

目次

一農家主婦の十訓　一一
一稲作法　一〇
一麥作法　一六
一肥料概說　一九
一蔬菜栽培　二四
一養蠶業　三五
一養畜業　三九
一農家十八德　四〇
一農家十八損

農家の主婦十訓

一、農家の主婦は必ず一家の收支を明かにすべく大福帳の記載方を心得置くべし
二、自家の耕地總反別及び各作物の作付反別を知らざるは恥なり
三、肥料の臭きを知つて取扱方及び施肥法を知らざれば農家の主婦たる資格なし
四、蔬菜類の肥培法を知らざれば食膳の調味も營養の增進も不可能に終るべし
五、種子の採取保存法と苗物の仕立方を知らざれば生產の增加は望み難し
六、入費の多きを憂へんよりも收得增加の途を心懸け一錢は百圓なることを忘るべからず
七、口巧者なる怠情者よりも腕節太く色黑き女は貴きものと知るべし
八、近隣の閑人に接せんよりは我家の牛馬に接觸すべし
九、料理法、洗濯法を知らざれば女にあらず
十、子供を育つるには先づ子供の心になれ學童受持教師の姓名を知らざる親は子の可愛さを解せざるものなり



○稲成育圖表

季節	五月 上旬	五月 中旬	五月 下旬	六月 上旬	六月 中旬	六月 下旬	七月 上旬	七月 中旬	七月 下旬	八月 上旬	八月 中旬	八月 下旬	九月 上旬	九月 中旬	九月 下旬	十月 上旬	十月 中旬	十月 下旬	十一月 上旬	十一月 中旬
	八十八夜 立夏		小滿	芒種	入梅	夏至	半夏生 小暑		土用 大暑	立秋		處暑	二百十日 白露		彼岸 秋分	寒露		土用 降霜	立冬	
成育状態	苗			代			本				伸長		田	熟成		登實				
	蒔付	幼苗		熟苗		田植	活着	株張												
養分吸收状態 高サハ養分吸收ノ多少ヲ示ス																				
作業	苗代地拵ヘ	薄蒔	實乾	浅水	害虫駆除	本田地拵	小株密植	株直	害虫駆除	雁爪	雁爪	追肥	除草	害虫駆除	害虫駆除	除草	害虫駆除	害虫駆除	刈取	架乾	調製

○麥成育圖表

月	旬	季節	養分吸收ノ狀態	作業
十一月	中旬			
	下旬	小雪		整地播種
十二月	上旬	大雪		
	中旬			
	下旬	冬至	株	第一回除草中耕
一月	上旬	小寒		第一回追肥
	中旬		張	第一回土入（深二、三分） 第一回麥ふみ
	下旬	大寒		第二回除草中耕
二月	上旬	立春	時	第二回土入（深五、六分） 第二回麥ふみ
	中旬			
	下旬	雨水	代	第三回追肥
三月	上旬	啓蟄	莖	第三回土入（深七、八分） 第三回麥ふみ
	中旬		立	第三回除草中耕
	下旬	被岸春分		第四回麥ふみ
四月	上旬	清明		第四回土入（深一寸）
	中旬		出	第四回除草培土
	下旬	穀雨	穗	第五回土入（深二寸）
五月	上旬	八十八夜立夏		黑穗ぬき
	中旬			第五回除草
	下旬	小滿		刈取
六月	上旬	芒種		乾燥調製
	中旬	入梅		

高サハ養分吸收ノ多少ヲ示ス

一、稲作法

◎稲の品種

本縣で栽培せらるゝ稲の品種は其數が却々澤山あるので米の改良上遺憾な次第であります縣では品種の統一と米質の改良を圖るために原種圃を設け各郡でも採種圃を經營して良い品種の普及につとめて居ます其優良と認めて居る品種は

早稲　穀良都　辨慶
中稲　雄町
晩稲　神力、猫又
糯稲　神力糯

◎多收穫耕種概要

一、籾種の精選

品質優良藁強くして多收作に適する品種を選び種子は必ず鹽水撰をなすこと

二、浸種

籾種は桶浸なれば毎日水を換へ其度毎に上下を能くかきまぜること川又は池に浸すときは菰包こし七日間位を良しとす

三、深耕

深耕すれば土地がやはらかくなり肥料を吸收保存する力も増し根が良く伸びるから稻の成育もよく増收が出來る濕田は寒中に乾田は秋から冬にかけて深耕するがよい

耕鋤深淺對肥料用量試驗（大分縣立農事講習所成績）

區別	耕度	施肥量	四ヶ年平均反當收量
五寸耕鋤	普通量		二、九五八
七寸耕鋤	普通量		三、四五五
	倍量		三、三〇三
	倍量		三、五二六

四、苗の仕立方

苗は薄蒔一坪に二、三合蒔きこし肥料は早く効能あるものを施して淺水をかけ養分に富んだ丈夫な苗を仕立つること

五、肥料の合理的配合

肥料は經濟を主として都合よく配合し稻の生長に連れ添ふて有効ならしめねばならぬ若し配合が悪く窒素成分が過ぐれば稻は柔かく出來て病氣にかゝつたり虫に蝕害せらるゝばかりでなく倒れ易くなり又出來た米も品質が良くない又燐酸や加里成分が少ければ米粒が揃はぬから餘程氣をつけねばならぬ普通稻作一反歩に對しては窒素三貫匁燐酸二貫七百匁加里二貫八百匁位を施用すること

追肥施用試驗（大分縣立農事講習所成績）

區別	施用時期	三ヶ年平均反當收量
全部元肥	地拵ノ時	三、石三四四
追肥一回施用	田植後十五日目	三、三五六

元肥 追肥二回施用	田植後 十五日目 二十五日目	三、二三七
元肥 追肥三回施用	田植後 十五日目 二十五日目 三十五日目	三、二五二

六、石灰の施用

土壌の酸味を消すために一反歩當り凡そ三十貫位の石灰を施すこと

七、田植の寸法

挿秧の距離は稲の品種や土地の力に依つて定めねばならぬが普通は一坪に對し六十株から九十株位とすること

○苗取後の處置と收量關係　（福岡縣立農事試驗場成績）

試驗區別	反當收量
苗取の日に挿秧す	二、石九二七
苗取後三日目に挿秧す	二、九〇三
仝　六日目に挿秧す	二、八七四
仝　九日目に挿秧す	二、八三二

八、水の掛引き

水は稲作には大切であるけれども稲の生長時期により必要の少い場合があるから水の掛引きに充分注意すること

○灌水と收量關係　（幾内支場試驗成績）

試驗區別	反當收量
灌水五分	二、石一三〇
同　一寸	一、九九九
同　二寸	一、九九九
同　三寸	一、八六九

九、手入の仕方

草取は五六回（内一回は雁爪打）行ふこと

田の草はこつて其まゝこやしかな

病虫害の驅除豫防を完全に行ふこと

十、刈取

稻刈りは丁度良い時にせねば收量が少くなつたり米質を損するものゆゑ適當な時期を誤らず鎌入をすること

民草の夏のかせぎのほゞ〳〵に穗にあらはれて出る秋の田

○收穫期試驗（福岡縣農事試驗成績）

試驗區別	反當收量
早刈區	二、石一九六
適期刈區	二、三〇四
晩刈區	一、九七二

十一、籾乾

籾乾の良く出來たものは米質が必ず良いものであるから架乾や蓆乾を完全にすること

十二、調製

調製には充分念を入れること

作業上の心得

一、整地法

地拵へは前の作物を刈取りてから成るべく早く耕き起し土塊を碎きて元肥を施し水を引き入れて畦畔を塗り塊返しをして代掻をなし（苗代は代掻き後水を落して短冊形揚床とす）植代を掻いて土面を均すのである

二、撰種法

間違ひのなき良き籾種を選び種浸けの前に鹽水撰をすること鹽水は水一斗に鹽三升五合位でよい

三、肥料

苗代一坪當標準施用量

第一例 肥料名	用量	第二例 肥料名	用量
腐熟堆肥	八〇〇匁	下肥	二、升〇
下肥	二、升五	棉實粕	一〇〇匁

過燐酸石灰	五〇匁
藁灰	三升〇

本田一反歩當標準施用量

第一例

肥料名	用量
堆肥	三〇〇貫
鯨粕	六
大豆粕	一四
過燐酸石灰	八
木灰	一〇

反當三成分量　窒素二、六　燐酸二、六七八匁　加里二、八〇〇

第二例

肥料名	用量
堆肥	二〇〇貫
大豆粕	二八
菜種油粕	一〇
骨紛	六
木灰	八

反當三成分量　窒素三、四七〇匁　燐酸二、六七八　加里二、五二六

過燐酸石灰	四〇匁
藁灰	三、升〇

四、播種及び挿秧

苗代は四尺位の幅に短冊形こし一尺ばかりの溝を作り水を落して種子を蒔き其上を輕く押へて藁灰を一坪に三升位振りまき其後に水をかくるがよい田植は苗取後すぐにするがよい株數は多く一株の本數は少くするがよいのである

五、除草

田植後十四五日目頃に一番除草こして雁爪打を行ひ、三四日其まゝにして置いて水を入れ雁爪直しをせねばならぬ其後は七日か十日置き位に田の草を取るがよい

六、水加減

田植當時は稍深水こし苗がありついてからは成るべく淺水こし又時々は水を落して稻を丈夫に生長せしめねばならぬ三番除草の後は少し乾しつけ穗孕み前からは又水をかけ穗か少し傾く頃からは全く水を落さねばならぬ

七、病害虫の驅除

稻の病氣で多いのは「イモ病」であるが其原因となる事柄に注意して初めに豫防するが大切である

害虫の主なものは「ムクゲ虫」二化螟虫三化螟虫、浮塵子、葉捲虫、椿象などある苗

代の時分から能く注意して根氣よく驅除をせねばならぬ

二、麥作法

麥の品種

麥も稻と同じで品種が澤山ありまして之れが改良統一と云ふことは寔に大切のことでありますから稻と同樣に縣で原種圃を設け郡では採種圃を經營して良い種の普及を圖つて居ます其優良と認められて居ます品種は

大麥　改良大麥　倍取
小麥　伊賀筑後　坊主小麥
裸麥　ねじ裸　景淸　膝八

多收穫耕種概要

一、種子の精選
品質優良稿稈强くして多收作に適する品種を選び種子は充分精撰すること

二、麥奴(くろぼ)豫防
冷水溫湯浸法を行ひ麥奴の豫防を怠らざること

三、深耕
深く耕すことの必要なるは稻作に於ると同じにして大分縣立農事講習所の試驗成績も稻と略同一なり

四、肥料の合理的配合
肥料の配合に對する注意は稻作と略同じでよい勿論經濟を主とせねばならぬが普通麥作一反歩に施す三成分量は窒素三貫五百匁燐酸二貫八百匁加里三貫位を可とす

五、播條(まきごこ)の擴大

播條を廣く切りて麥の生へる所を畝にて株張を盛なしらしめること

六、薄　蒔

薄時にして株張を盛ならしめ日光空氣の透通を良くして丈夫に成育せしめ大きな穂を出さしむること

七、土　入

土入を行ひ麥の莖を丈夫にして株張を促し倒さぬこと

八、踏　壓

麥ふみを行ひて根の發育を盛にし葉や莖の無駄に伸ぶことを防ぎ成育を強健にして出穂を揃はしめ實入を良くすること

○踏壓試驗（大分縣立農事講習所成績）

區別	五ヶ年平均反當收量
一回踏壓	二、石〇〇六
二回踏壓	一、九四三
三回踏壓	一、九九八
四回踏壓	二、〇四六
五回踏壓	二、一二四

九、除草、中耕

草取を怠らず行ひ度々中打ちをして肥料の効能を促すこと

十、適期收穫

穂首が黄褐色に變じたなら刈取ること

作業上の心得

一、整地法

田地を深耕するには稻の株切をしてから行へば仕事が早くて立派に出來る土地の模樣で畔の形を定め土塊は叮嚀に碎きて平作や高畔作とするがよい

二、撰種法

鹽水は水一斗に鹽四升位とすること若しニガリを用ふるならば水と等分量を混ずるがよい尚同時に麥奴豫防をせねばならぬ

三、肥料

肥料を施すには播條の底に堆肥、大豆粕、棉實粕、過燐酸石灰の類を施し土をかけて水肥を流し下種す木灰は發芽後に用ひ硫酸アンモニヤや智利硝石なぎを追肥として施す場合は水一荷に七、八十匁を溶かして用ふるがよい尚一反歩に對し石灰四十貫位を施用するは大切なことである

○反歩當標準施用量

第一例

肥料名	用量
堆肥	二〇〇貫
大豆粕	二八
下肥	一五〇
過燐酸石灰	一〇

第二例

肥料名	用量
堆肥	三〇〇貫
菜種油粕	二五
下肥	一〇〇
過燐酸石灰	八

木灰	一二
反當三成分量	窒素三、四九五匁 燐酸二、八七〇 加里三、〇三五

木灰	一五
反當三成分量	窒素二、九三二匁 燐酸二、九五五 加里三、五九四

四、播種法

播條は幅七、八寸乃至一尺深さ三寸位の平底に切り之れに元肥を施し肥料の見ぬ位に土をかけ水肥を流して種子を蒔く土掛は成るべく淺くし晴天打ち續く時は播種後五六日以内に必ず播條の上を踏み付くるがよい一反歩當の種子量は三升位でよい

五、土入法

土入は五回位之を行ひ立春前後迄は麥の發育に應じて土入器で適宜にふるひかけ其の後は成るべく多く土入をなし最後には四、五寸の深さにせねばならぬ

六、踏壓法

麥踏みをするには草鞋などをはいて麥の上より踏まず横斜に踏みつけ何時も土入後にするがよい

七、除草中耕

草取は度々之れを行ひ中打は三又鍬を以て初めは浅く第三回目からは深く打ち最後は平鍬で土寄せをするのである

三、肥料概説

作物に肥料を施す目的は養分を與へて完全に成育せしめ良い品を澤山に取る爲めである

作物の養分としては色々あるが其の内主なものは窒素、燐酸加里の三成分であるから作物の種類に從ひ尚土地の力や氣候などを斟酌して丁度良い程用ひねばならぬ若し其二成分だけは程良い分量であつても他の一成分が少ければ出來榮惡く收穫も尠くなるものである

肥料を配合するには肥料の性質を知らねば都合が惡い普通農家の内に出來る肥料や金肥中の主なものにつき少し述べて見よう

一、手間肥

手間ごえやときめ貴く地もこえてげに民草のたからなりけり

酸　性　紫雲英、青刈大豆、青草、唐芋蔓、稻藁、麥稈等

鹽基性　下肥、堆肥、牛馬糞、蠶糞、鷄糞、草木灰

きれたわらじもそまつにするな米をそだてし親じやものの米のなる木で作りしわらぢふめば小判のあとがつく

一、金肥

酸　性　過燐酸石灰、硫酸アンモニヤ、配合肥料

鹽基性　骨粉、硫酸加里、石灰、鍊粕、鰕粕、其他ノ魚肥

弱鹽基性　大豆粕、棉實粕

肥料の取扱及配合法

普通の農家は肥料成分の飛散することや肥効の惡くなることなどに無頓着なことが多い一例を擧げて見れば厩肥や堆肥、下肥などを貯藏する際に日光や風が當つて肥分の消失するにも平氣おまけに木灰などを上から撒きかけるため主な肥料成分は飛散してき・めのな

いものとなる

たましいはぬけてもぬけのからなるをこやしと思ふ人そばからし

又甲の肥料と乙の肥料と混ぜ合せるときにも、餘程注意せぬと目には見ねぬが効能がなくなつたり性質が悪變したり又肥分を逃がすことがある下肥や堆肥硫酸アンモニヤなどに木灰又は石灰を混ぜると主な窒素成分は飛散し燐酸成分は水に溶けないものとなり効能が少くなる又過燐酸石灰に木灰・石灰などを混ぜると燐酸は容易にきかぬから之等の肥料を施す時には五。六日間を隔て、使用するを良しとす

肥料施用上の注意

(イ)、同時に施さず必ず數日を隔て、施用すべき肥料

下肥　草木灰、石灰、石灰窒素、トーマス燐肥

過燐酸石灰　右に同じ

硫酸アンモニヤ　右に同じ

(ロ)、豫め配合して置くのは良くないが施す時に混ぜるは差支なき肥料

智利硝石　トーマス燐肥、燐過酸石灰、石灰窒素

硫酸加里　石灰窒素、トーマス燐肥、石灰、木灰

右の外人造肥料には草木灰や石灰などと同時に施してはならぬ肥料が多いのであります

四、蔬菜栽培

人間の身體や精神を強壯にするには穀菽。肉類の外野菜を食る必要があるそこで近年蔬菜園藝も餘程進歩して來た野菜作りは殊に婦人にふさはしい仕事である蔬菜栽培上主な事柄は

一、種子を選ぶこと

二、地拵へを丁寧にすること

三、播種の時期を誤らぬこと

四、肥料を程良く施すこと

五、手入を怠らぬこと

普通栽培する數種の野菜につき作り方の概要を記せば

種類名	優良品種	畦幅	株間	一畝歩播種量	播種期	收護期	一畝歩收量	肥料一畝歩當	摘要
大根	二年子大根	二、〇寸	〇、八寸	五勺	十月下旬	三月頃	八〇貫	堆肥 二〇貫 鯡粕 三五 過燐酸石灰 一、五 木灰 二	貫花ガ咲キ易ヒ採收ヲ得ラヌコト 害虫驅除ヲ怠ラヌコト
	亀井戸大根								
	宮重大根								
	練馬大根	二、〇	一、〇	六勺	八月中旬	十一月	九〇		
	田邊大根								
	聖護院大根	二、五	一、二	六勺	九月上旬	十二月	一二〇		
蕪	夏かぶ	一、五	六	四勺	三月下旬	六七月	三五	堆肥 二〇 下肥 三〇 過燐酸石灰 一、 木灰 一、	同前
菁	聖護院	二、〇	一、〇	三勺	九月上旬	十二月	八五		
	近江天王寺								

種類名	優良品種	畦幅	株間	一畝歩播種量	播種期	收護期	一畝歩收量	肥料一畝歩當	摘要
人參	三寸人參	一、二	、五	三合	三月中旬	七月	三〇	堆肥 二〇、 下肥 三〇、	播種後ハ乾燥ヲ防グ事
	金時	二、〇	、八	三合	七月中旬	十一月	五〇	油粕 一、 過燐酸石灰 、八	播條ノ上ヲ蹈ミ付クルコト
	瀧川								
午蒡	砂川	二、〇	、八	一合	三月下旬	春蒔十二月	六〇	大根ニ準ス	夏土用迄ニ追肥ヲ施スコト
	瀧ノ川				九月下旬	秋蒔五月			
馬鈴薯	アーリーローズ	二、〇	一、五	二貫	三月中旬	六月下旬	四五	堆肥 二〇、 過燐酸石灰 一、 油粕 一、 下肥 二五 木灰 三、	一株カラハ二、三本ノ莖ヲ出シ他ハ摘ミ取ルコト
	長崎赤			二、五	九月上旬	十二月上旬	六〇		
	五郎八赤								
里芋	八ツ頭芽	二、五	一、五	三、	四月上旬	十一月	五〇	馬鈴薯ニ準ズ	夏土用後ノ新芽ヲ壓ヘ草ヲ敷キ土ヲ寄スル事
甘藷	元氣	二、〇	一、五	二	三月下旬	十一月	八〇	堆肥 二〇、 米糠 二、 過燐酸石灰 一、五 木灰	温床ニ種芋ヲ下シ蔓一尺位ノ時ニ植付クルコト 株際ノ土ヲ軟カクシ尚芽ノ付元ヲ壓フルコト
	久島越								
	川手								
玉葱	ニューターンバース	二、五	五寸	五勺	九月中旬	六月	四〇	馬鈴薯ニ準ス	
	プライステーカー								
	赤玉子ギ		二列植						
葱	九條	二、五	、四	四勺	三月下旬	一月	八〇	大根ニ準ス	成長スルニ從ヒ土寄ヲナスコト
	千住				九月中旬	八月			

類	菜	甘藍	南瓜	越瓜	胡瓜	茄子
生高菜	茨城 開域 直隷 長崎	サクセツシヨン オータムキング	菊 縮緬 黒皮 早生 縮緬	佐伯 早生 越瓜 桂 越瓜	札幌 刈羽 大胡瓜 節成	大 博多 長歳 行 德
二、五	二、〇	三、〇	九、〇	三、〇	三、〇	二、五
一、五	一、五	二、〇	五、〇	二、五	一、五	一、五
二勺	五勺	一勺	三合	三勺	三勺	二勺
九月中旬	八月中旬	九月上旬 三月下旬	三月中旬	四月上旬	三月中旬	三月上旬
一月	十二月	六月 十二月	八月	八月	七月	八月
七〇	八〇	七〇	五〇	六〇	五〇	一〇〇
	甘藍ニ準ス	茄子ニ準ス但米糠ノ代リニ鰊粕ヲ用フ	茄子ニ準ス但シ油粕ノ代ニ鰊粕ヲ用フ	胡瓜ニ準ス	茄子ニ準ス但シ米糠ヲ用ヒス	堆肥二五、木灰二、温床ニ下程シ二回假植油粕二、下肥二〇、米糠一、過燐酸石灰一
	苗床ニ仕立移植シテモヨロシ追肥ヲ怠ツテハナラヌ	苗ノ時二三回假植ヲナシ本植スルコト	摘心シテ子蔓ヲ出サシメ結顆ヲ促スコト	摘心シテ子蔓四本ヲ出シ尚度々摘心スル事	一本立トナシ支柱ヲ與フ大胡瓜ハ摘心スルコト	茄子ニ準ス一本立トナシテ本植ヲナスコト

蔬菜の藥用上の効能

一、小豆は便通を良くす

一、大豆は糖尿病を治するに効あり

一、蕃茄は脂肪の消化を助け肝臓癖痺を治す腎臓病にも宜し

一、茄子は痰の出づるを防ぐと云ふ

一、茘を食することは内臓を温め風邪の咳を治す

一、葱頭は滋養ありて皮膚の生理的作用を助け光澤を良くし血液の循環を助け神經を鎮め胃の強壯劑となる

一、塘蒿は腦を強健にす

一、蒿苣は神經過敏を鎮む

一、石刃拍は腎臓病を醫し痢尿劑として効あり

一、大根、胡瓜を食するときは食物の消化を助く

一、豌豆は「リウマチス」病に効あり
一、甘藍は血を清潔にす
一、葱蒜を食するときは流行病の豫防に効ありと云ふ
一、柿の蔕八個を水一合に煎じ一日三回服用咀に効著し
一、柿澁は蝮蛇に咬まれたるによくき、胸のやくるには生(串)柿を食すれば速治す

五、養蠶業

〔一〕桑樹栽培法

一、桑園改良上の要點

イ、老朽桑園を改植し或は更新法を施すこと
ロ、施肥期及施肥量に注意し土壌の改良を計ること
ハ、耕耘管理を合理的にし樹勢を強剛ならしむること
ニ、秋蠶專用桑園及秋蠶稚蠶用桑園を特設し春秋兼用桑園の摘葉量を少くすること
ホ、種類の優良なるものを選むこと

二、年中行事

三月　上旬堆肥四百貫大豆粕十五貫草木灰八貫を施し畦間の土を掘りて平にし結束を解き害虫驅除をなす
四月　上旬下肥百貫(硫酸アンモニア一貫五百匁)を施し中旬青刈大豆反當八升の割合に播種し同時に過燐酸石灰四貫を施用す
五月　蠶兒の發育に伴ひ滋養の充實せるものを選み(一齡中はフトコロ葉を用ゆべし)漸次小枝より採收するときは收量を增すを得べし
六月　上旬株直しをなし下肥百貫(硫酸アンモニア二貫五百匁)を施し下旬より翌月上旬にかけ青刈大豆を刈り入れ畦間に埋め麥稈、藁、山草等の如きものは同時に施すを宜しとす

七　月　除草を懇にし整枝をなすべし

八　月　稍株の發育不良のもの及下枝を除去し天牛驅除をなし翌月に亘り山草を刈入るゝを宜しとす

九　月　春蠶用桑園に就き發育を害せざる程度の適採をなし（枝條約二分の一）晩秋蠶の飼育をなすべし

十一月　結束をなし深く耕耘し土壤の性能を圖るべし以上藁、麥稈、山草等は時期及其量を問はず適宜に施用し時々石灰を（三十貫内外）を施用するを宜しとす

〔二〕蠶兒飼育法

三、蠶室及蠶具

イ、空氣の流通可良にして明るく且つ保温に便なるを宜しとす居宅を蠶室に充つる場合は充分注意を要す

ロ、火爐及天窓の設備をなすこと

ハ、稚蠶用の室は特に適當なる室を選むべし

ニ、蠶具は成るべく自家に於て製作し使用に便なるものを選むべし

四、蠶種

イ、品種の優良なるものを選むこと

ロ、信用ある製絲家に就き共同購入をなし又は依託製造をなすこと

ハ、製造方法及び保護の完全なるものを選むこと

五、催青及掃立

イ、掃立時期こ桑葉の發育こを斟酌し其當を得せしむること

ロ、催青温度は七十四五度を目的こすること

ハ、催青は可成共同して行ふを得策こす

ニ、掃立に際しては蠶兒を損傷せざる樣注意すること

六、温度及濕度

イ、飼育温度は七十四五度を目的とすること

ロ、温度の調節には火力を用ゆべし火力は單に補温の効あるのみならず氣通排濕の効果大なり

ハ、保温は炭火又は埋薪法に依るを可とす

ニ、稚蠶中は稍高温とし壯蠶は稍低温を保たしむべし

ホ、時々焚火をなし補温排濕に努むるを宜しとす

ヘ、飼育中は常に乾燥に努むること

七、給葉

イ、桑葉は蠶兒唯一の食物なるを以て良桑を選むは勿論其葉質及稔熟程度の適度にして營養に富みたるものを選むべし

ロ、桑葉は新鮮なるものを選み特に柔軟なる嫩葉を避け滋養分の充實せるものを給すべし

ハ、貯藏を完全にし萎凋せるものを給すべからず

ニ、給葉回數は飼育温度と刻葉方法及全芽を給するものに依りて異にすること

ホ、全芽を給する場合は四眠迄を一晝夜三回とし五齡に至り四回を給す

ヘ、坐葉育の場合は其刻み方の小なるに從つて回數を增すを要す

ト、坐葉育にありては一齡七八回二齡七回三齡六回四齡五齡を四五回とす

チ、給葉量は飼育温度の高低坐葉方法の大小氣候の乾濕に依りて斟酌するを要す

リ、蠶座一坪に對する給葉量の標準を示せば凡そ左の如し

種別＼齡	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡
坐桑育	二匁乃至三匁	三匁乃至四匁	四匁乃至六匁	六匁乃至八匁	十八匁乃至二十五匁
全芽育	五匁乃至七匁	六匁乃至九匁	八匁乃至十匁	十匁乃至十五匁	十八匁乃至二十五匁

ヌ、之れに依りて蟻量一匁に對し坐葉育にありては約百五十貫全芽育にありては百二十五貫内外の桑葉を準備すること

八、除沙及分箔

イ、除沙は適宜に之れを行ひ常に蠶座の清潔を計り濕潤又は醱酵して蠶兒の衛生を害せざる樣注意すること

ロ、除沙を行ふには蠶座の乾燥せるを待ちて籾糠を撒布し又は網を布き三四回給葉の後除沙するを要す

ハ、除沙の際は蠶兒を損傷せざる樣注意すること

ニ、蠶座の廣狹は蠶兒の發育と桑葉の經濟に至大の關係あるが故に常に其適度を得せしむること肝要なり

ホ、蟻量一匁に對する蠶座の標準凡そ左の如し

種別	齡	掃立	初眠	二眠	三眠	四眠	五齡
坐桑育		一坪	五坪	十坪	二十四坪	六十坪	九十坪
全芽育		半坪	二坪	六坪	二十坪	五十坪	八十坪

ヘ、坐桑寸法の大小桑葉の厚薄虫體の大小等に依りて斟酌するを要するは勿論なりとす

九、眠起の取扱ひ

イ、眠中の蠶兒は食を採ることなく眠前に脂肪を蓄積し自體を養ふが故に盛食期は充分飽食せしむべし

ロ、點々催眠蠶を認めたるときは眠糠入れをなし一回の給葉は其量を增し漸次半減して二三回を給し桑止めとなすべし

ハ、坐葉育に依るものは眠糠入れ後溫度を上昇し（八十度を限度とす）就眠せしむべし

ニ、全芽育にありては眠糠入れ後約半數の催眠蠶を見て除沙を行ひ然る後溫度を上昇するを要す

ホ、眠中は平溫を保ち蠶沙の乾燥に努め氣通を克くし起蠶の顯るゝを待つべし

ヘ、餉食の時期は起蠶の顯れてより春蠶にありては二十時間內外（夏秋蠶にありては六七割の起蠶を見て一回給葉し置く）にして起蠶の飢ざる前に於て餉食するを要す

ト。飼食の桑葉は滋養分に富み咀嚼し易き桑葉を選み給するを可こす

一〇、上簇及收繭

イ。繭の多少は五齡中の食桑量と比例するものなるを以て特に滋養豐富なる桑葉を擇み充分飽食せしむるを要す

ロ。上簇期に到れば保温をなし上簇を整育ならしむるを要す

ハ、簇は充分乾燥せしめ且つ營繭の場所を多く與ふる樣注意すること

ニ、熟蠶は一平方尺に對し普通五十頭内外を容るゝを可こす

ホ、結繭中は保温乾燥に努むるは勿論上簇後三晝夜は七十五度乃至八十度の温度を保ち乾燥を計るべし

ヘ。上簇室は常に明るくし空氣の流通を克くし繭の光澤を損せざる樣注意すべし

ト、蠶兒の結繭を終り蛹の褐色を呈するを待ちて收繭するを宜しこす

チ、繭は上繭中繭下繭玉繭等を區別し共同販賣に依るか或は製絲場こ直接取引を行ふを宜しこす

〔三〕夏秋蠶飼育要點

イ、蠶室は廣大清涼にして空氣の流通宜しく四圍の開閉自在なるを要す

ロ。温度は普通天然温度に依るものなるも八十度内外は飼育發育容易なりこす

ハ。夏秋蠶期は晝間は乾燥に失し夜間は濕潤なるを常こするを以て其調節に注意すべし

ニ、特に多濕なる場合は焚火をなし乾燥に努むべし

ホ。桑葉は硬きに失する場合多きを以て稚蠶用桑園を設け常に適當なるものを給するに努むべし

ヘ、桑葉は新鮮なるものを貴ぶが故に朝露の乾かざる前摘入れ置くを要す

ト。壯蠶にして晴天の時は露桑を給するを得策こす

但し夜間及稚蠶中は適宜露の乾きたるものを給すべし

チ、稚蠶中炎熱甚だしく桑葉の枯凋甚だ敷き場合は濕布を覆ひ桑葉の萎調を防ぐを宜しこす

リ、給桑量の不足及其時期の後るゝ場合は飢餓に陥り易きが故に常に桑不足なき樣注意すべし

ヌ、高温にして給桑量多きに從つて蠶座不潔となり蠶病の蔓延速かなるを以て除外は頻繁に行ふを可こす

ル、蠶座は春蠶に比し稍狹きを宜しこす之れ給桑頻繁なるを以て喰ひ盡すこと速かなるを得策こするが故なり

ヲ、眠起に際しては高温なるが故に頗る敏活なる取扱ひを要す高温の場合は可成眠りを後らしむる樣注意するを要す

ワ、眠中は氣通を計り清涼ならしむる樣注意すべし

カ、飼食は早く起き出でたる蠶兒の飢餓せざる樣注意するを要す

ヨ、五齡用桑は殊に肥培の完全にして滋養豐富なるものを給すべし

六、養畜業

農家の副業こして牛、馬、鷄の類を飼ふここは大切のここであるから之等畜類の飼養蕃殖を圖り勞力や肥料の利用をなし農家經濟の助けこしたいものである

(一)、牛　飼養の目的に依つて役用、肉用、乳用等其種類を選ばねばならぬ普通の農家では毛色黑く身體や四肢が丈夫で能く太る牛を飼ふがよい

牛の蕃殖に適する年齡は種類こ食物なごに依り多少の違いはあれご早きは一年半遲きも二年位で種付をします牝牛は三、四週間毎に游牝期が來ますから此時に交尾さするがよい

姙娠期間は大抵二百八十五日である產後母牛には麩を水に溶かして與へ仔牛には乳を飲ませ五、六ケ月立てば親から離すがよい

(二)、馬　農業に使ふ馬は四肢が短く蹄て丈夫に胴や尻の太い馬が一番好いのである

馬の蕃殖は春、發情期に行はしむるがよい牝馬は明け四歳牡馬は三歳になれば交尾させられる姙娠後大抵二百四十日位で出産する初めて子を産む馬は産前から乳房に當つて慣らして置かぬと仔馬に乳を飲ませぬことがある母馬には麩を水に溶かして與へ仔馬には乳を飲ませ五六ヶ月たてば親から離さねばならぬ

牛馬の飼養管理法　牛は反趨動物であるから粗食に堪ゆる力がある馬は單胃動物であるから消化し易い飼料でなくてはいけぬ普通の飼料として稻藁、乾草、甘藷蔓、生草、麥類を用ふ之れを調理するには極丁寧にし時々食鹽を與ふるを宜しとす管理上の主な事柄は

1、厩舍の敷藁は時々取り換へ清潔にすること

2、牛馬の身體を藁又は根櫛、毛櫛などで綺麗に手入れをすること

3、食事の前には水を與ふること

4、勞役後には清水で口を洗ひ休ませること

5、汗の出た時は蔭に休ませて後鞍を取ること

6、蹄血部を摩擦して血のめぐりを能くし四肢を丈夫にすること

7、蹄底の汚物は箆などにて取り除き蹄を大切にすること

(三)、鷄　種類が澤山あるがレグホーン。ミノルカ。プリモースロック。名古屋コーチン等は飼ひ易く卵を多く産む宜き種類である飼ふ場所は南向又は東南向の温かくて日當りや風通しのよき所を選び柵飼ひとすれば至極便利である飼養管理上注意すべき事柄は

1、雌雄の數は普通一羽の雄に雌八羽から十二、三羽位をよしとす

2、食餌は費用のいらぬ碎米。屑麥。麩。糠の類を用意し一日に四、五回與へ朝や晝は糠類に青菜と魚屑などをねりて食はせ晩は穀類などを澤山にやるがよい菜類のやり方が少いと病氣にかゝり易く魚類（貝殻もよし）のやり方が少いと卵を澤山に産まぬものである

3、水は毎日清淨なものを與ふるがよい

4、孵化用の卵は成るべく新しきものがよい産んでから十四。五日以上經つたものはよくない

5、卵を貯藏するには箱の中に籾殼をいれ其中に卵の太き方を下にしてつめ陰所に置くこと

6、巣鶏に卵を抱かするには大抵一羽に十三個から十五個位が適當である而して其時期は二、三月頃がよい普通二十一日目には孵化するのである雛の餌としては粉末粟。野菜、鰌なごがよい

7、雌は雄が居らなくても卵を産むけれど孵化せない

8、羽を換はす時分や冬期或は雨天續きの際には病氣に罹り易いから食餌に大麻の實。胡椒なごをまぜて與ふるか水の中に燒酎を少し入れて飲ませるがよい。

農家の十八徳

家内和合す	子孫繁榮す
臣民の道を全ふす	人道を踏み信仰の人となる
勤儉の美風を生ず	世人の信用厚し
經濟の道を辯明す	良師良友を得る
財産を積むに至る	心に餘裕あり
智德向上し理屈を言はず	疫病神の襲ふ隙なし
衣食住備はる	藥代を要せず
禮節を知る	福の神家に集まる
身體强健となる	家内安全御家族繁昌

心掛け良き農家

農家の十八損

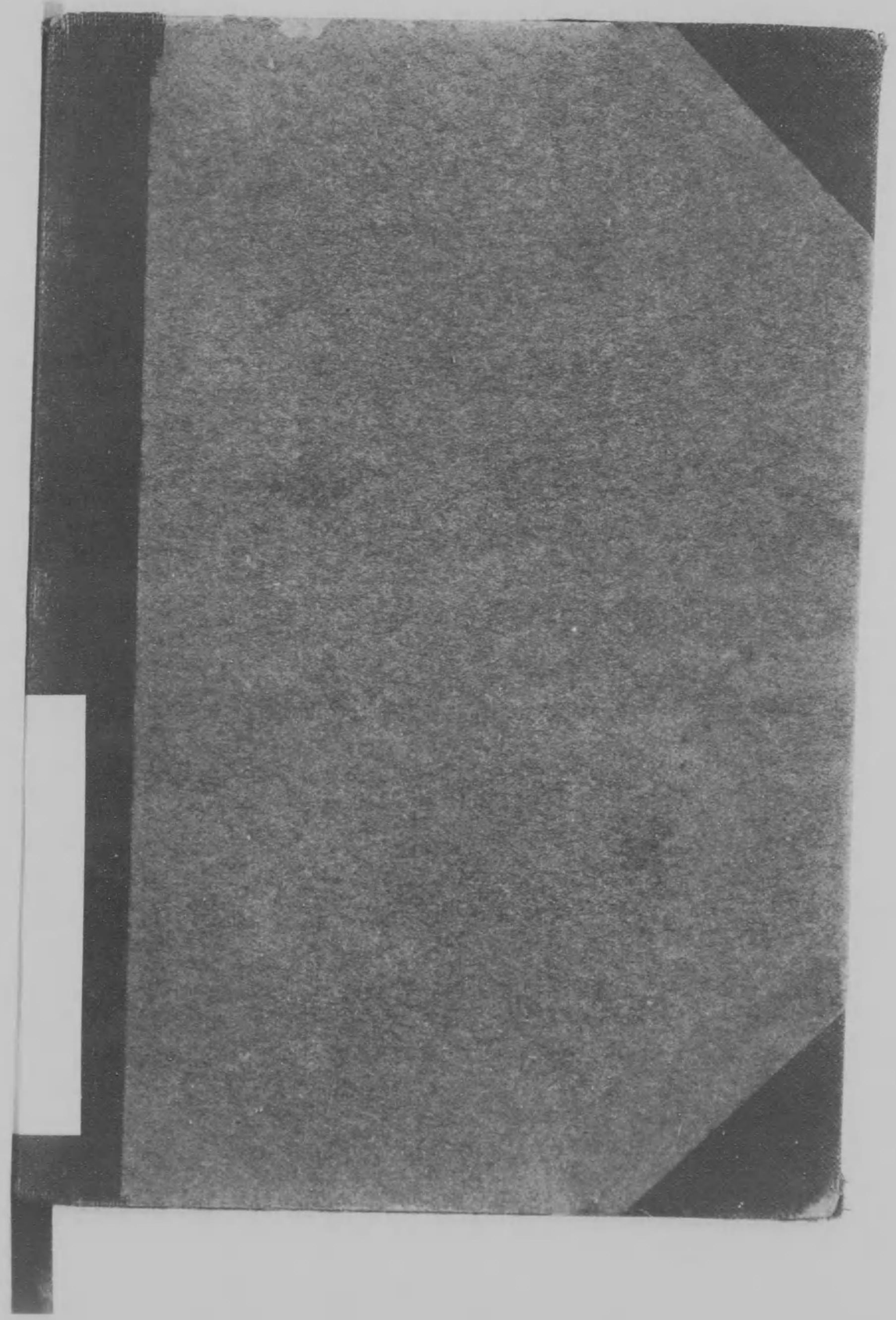
家内和合せず
子孫衰退す
臣民の道を知らず
人道を踏み外し神佛より見捨らる
貪慾の奴となる
世人の信用なし
經濟の道を辨へず
惡人を友とし外道耳より入る
財産減耗す
心に餘裕なく愚痴多し
理屈多く智德進まず
疫病神は再來す
衣食住不自由なり
藥代をも拂へず
禮節を知らず
貧乏神常宿す
身體柔弱となる
家内不安家は滅亡

心掛け惡しき農家

大正十年八月十五日印刷
大正十年八月十九日發行（非賣品）

著作兼發行者　山内豐重　大分市荷揚町三四
印刷者　植木榮助　大分縣速見郡別府町一二〇
印刷所　大正印刷合資會社　大分縣速見郡別府町一二〇

發行所　大分縣農會

396
188

終